

男子戦評

大会名 第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日 時 平成27年11月7～8日

会 場 カクヒログループスタジアム

男子決勝（11月8日）

弘前工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25-13 \\ 24-26 \\ 25-19 \\ 25-17 \end{array} \right\}$ 1 五所川原工業高等学校

ファーストレフリー

晴山 雅紀

セカンドレフリー

新岡 勇士

2年連続38回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）と2年ぶり7回目の出場を目指す五所川原工業高等学校（以下五工）との対戦である。

第1セット序盤、弘工は時間差攻撃やサービスエースで一気にペースを握る。五工はミスもあり、7-0でタイムアウトをとる。その後、五工はクイック攻撃やテンポの速い時間差攻撃で応戦するが、要所でのミスもあり、徐々に点差を広げられる。弘工は高さのあるクイック攻撃やサイドからの攻撃が機能し、加点していく。五工は、移動攻撃などで応戦するが、序盤に主導権を握った弘工が25-13で第1セットを先取した。

第2セット序盤、五工はブロックアウトやコースをついたスパイクで抜け出す。対する弘工はミスが連続し、6-2とされタイムアウトをとる。その後は中盤まで、両者粘り強い守備と攻撃で一進一退の攻防が展開される。五工は時間差攻撃やサイド攻撃に対するブロックが機能し始め、弘工はフェイントやバックアタックなどで応戦する。終盤、スパイクが決まりだした弘工が追いつき、同点としたところで、五工がタイムアウトをとる。タイム後、スパイクとブロックで加点した五工が26-24で2セット目を奪った。

第3セット序盤、弘工はクイック攻撃やフェイント攻撃、ブロックで得点を重ねる。対する五工はリベロの安定感あるレセプション、ディグで攻撃を組み立てていく。弘工はクイックやサイド攻撃が連続して決まり、序盤のリードを維持したままゲームを進め、25-19で3セット目を奪取した。

第4セット序盤、弘工は守備のミスが連続し、5-2とされタイムアウトをとる。中盤は両チームが多彩な攻撃を仕掛け、シーソーゲームが展開される。五工はサイド攻撃やバックアタックが要所で決まり、ペースを握るが、守備の乱れから逆転される。弘工は、リベロのディグなどで粘り強く繋ぎ、終盤はクイックやブロックで一気に抜け出す。第4セットは25-17で弘工が勝利した。弘前工業高校はセットカウント3-1で勝利し、2年連続38回目の選手権出場を決めた。

戦評者 本間 貴士